

広報実践
独自提案

三原を聖地に! 駅前に新たなにぎわいを創出



・・・新たなにぎわいの創出・・・

7月号では竹原市の「たまゆらのまち たけはら」によるアニメキャラクターでの新たなにぎわい創出の特集を行ないました。私たち三原に関連したキャラクターでまちのPRを行ない、来訪者を増やし活気あるまちを創ってゆく必要があるのではないのでしょうか。

他市から三原に来てもらうには、三原の良いところを掘り下げてPRを行うことが必要です。三原のブランドで代表的なものは、たこ・浮城・だるま・やっさ祭りなどがあります。その中で各種団体と行政が今取り組みを進めている築城450年を掛け合わせると浮城のキーワードが挙がってきます。つまり小早川隆景公を今までにない新たなイメージによる発信方法を提案します。

右のキャラクターはコーエーテクモゲームスより販売されているアクションゲーム戦国無双の小早川隆景公です。2004年に発売された人気シリーズで、総売上本数は約400万以上と大ヒットしています。2014年に発売された続編から小早川隆景公も初参戦され、売上本数約33万本でアニメ化もされています。そして見ての通り非常に男前です。インターネットで「小早川隆景公」を検索すると、こちらのキャラクターが多く見られ話題性があると考えます。



隆景公もびっくり!?



”戦国無双“より 小早川隆景公

『戦国無双4』 ©コーエーテクモゲームス All rights reserved.

三原駅前 過去と現在が融合する 小早川隆景ワールド



キャラクターによるまちのPR

まちの活気にはひとが必要です。人口減少の時代を向かえた今、何もしなければまちの活気は薄れてしまいます。まちに来るひとを増やすにはまずまちに興味をもってもらわなければなりません。そこで、今までのイメージをくつがえすインパクトが必要だと考えます。

上記キャラクターは本当の歴史とイメージがかけ離れている小早川隆景公がもしもかもしれません。しかし、若い世代はポップカルチャーとしてアニメやゲームをインターネットを介しリアルタイムに体感しています。もしかしたらゲームなどの小早川隆景公の方が若い世代にとっては抵抗が少なく受け入れやすいとも考えられます。三原市の高齢化率（65歳以上の老年人口の割合）は25.7%で広島県全体での20.9%を大きく上回っています。65歳以上の人口は昭和45(1970)年から増加しはじめ、平成17(2005)年と昭和45(1970)年との比較で約3倍まで増加しています。また、平成7(1995)年に年少人口（0～14歳）と老年人口が逆転しています。まちの若返りに次世代が求められています。

左の図は広報実践委員会による新たな駅前の観光マップ提案です。三原を小早川隆景公の聖地として全国区にすべく、発信効果の高いキャラクターを活かしてまちのPRの効果も含めた観光地を目指します。例えば戦国無双に出てくる小早川隆景公のまちの宣伝キャラクターとし、駅前広場にブースを設置し関連グッズの販売や撮影などができるセットを設け、イベントを行なうなどで話題作りをして集客を図ります。また、小早川水軍の船を港に置き観光ポイントを増やしたり、商店街に戦国武将の飲食店を開店させたりして、ひとが回遊するルートを作ります。駅北側には本物の隆景像があり浮城と歴史史跡、博物館を建て実際の歴史を体感してもらい駅前を一つのテーマで統一し観光の特色を強めます。まちが団結して一つのテーマで盛り上げてゆけば大きな力になるのではないのでしょうか。

地域住民と子どもが触れ合い集う場所 ～地域子育て支援から始まるコミュニティ～

地域子育て支援サロンについて

現在、三原市内には16の地域子育て支援サロンが運営されています。これは核家族化により家で一人在宅子育てをされている方の孤独防止や子どもたちを地域で支え育ててゆくとする地域住民主導の活動です。子育て世代と地域、また世代間や専門職の方とも交流がもてるつながりの場所になっています。その中で、今回は中之町にある子育て支援にここにクラブさんを取材させていただきました。ここにクラブ設立は倉ノ内公民館（中之町3丁目14-28）の新築をきっかけに始まり、地元地域住民によるボランティアの皆様で企画・運営を行なっております。



子育て世代のコミュニティ



サロンが始まるまでは地域の方と子どもたちの触れ合いやと同じ世代の子育て環境にある方たちの情報交換の時間も、育児を通じた仲間づくりができます。

地域住民主導の運営



開催時間前から準備する地域住民のみなさま

ボランティアとして現在18名の方が登録されています。クラブ代表の元永 清美様に伺うと、地域住民の方同士が誘い合い、自由参加のスタイルをとることで負担に感じることなどなく皆様参加できていると言われています。

また、月に一度の開催に向けて地域住民の方が企画を考え事業計画書を社会福祉協議会へ提出し、助言・相談等を行い認可されることで開催費用の一部を助成する流れで1年間通しての活動が行われています。

当日の準備

取材した7/9(木)は午前10時に開会でしたが、地域住民の方たちが早い時間からおやつ準備や会場の設営をされていました。10時前になると親子で来場され受付で名札をもらい、まずは地域住民の方と近況などの話題で盛り上がっています。参加は自由なので何人来るかわからない状況となっておりますが地域住民の皆様様の臨機応変でスムーズなご対応をされていました。

当日は子ども10名、保護者8名、地域住民のみなさまが12名で開催でしたが、今年に入り参加される方が減ったとゆうお話を伺いました。ここでも人口減少やライフスタイルの変化などの要因があるのではないのでしょうか。



当日の催し

時間になると、親子体操からスタート!



まず、みんなで体を動かすことにより心身ともにリラックスした状態で会が始まります。

体操が終わると本の読み聞かせです

みんな大好きで姿勢よく夢中で聞いています!



お話を聞いた後は布とボールを使い、思いつきり体を動かして遊びます。



この日は三原市の方から保健士さんが2名参加されており食育講座や健康相談、子供を抱っこして肩こりになっている場合のストレッチなど盛りだくさんでした。



いよいよおやつ時間です。今月の誕生日の子をみんなで祝いましょう! おやつはアレルギーの子にも安心して食べられるうどん粉をつなぎにしたみたらし団子でした。地域のあたたかみを感じれる一コマです。



午前10時から2時間弱の時間でしたが、誰一人携帯端末などを気にする人もなく参加された方全員がコミュニケーションを取り子どもと向き合う姿勢に感銘を受け、アレルギーの出る食材を使用しないおやつレシピを配ったり、前月の催しの親子写真を配ったりと素晴らしい形が確立されていると感じました。多い時には約60名の方が参加されることもあり、子育て中の方は市内全域から参加可能なので一度足を運んではいかがでしょう。

興味ある方はこちらにお問合せ下さい!

地域子育て支援サロン

三原市社会福祉協議会 各地域センターへご連絡先
三原 0848-63-0570 本郷 0848-86-3607
久井 0847-32-7101 大和 0847-34-1214

本紙やまもっさも、ここに掲載の企業の協賛で発行しています。

Table listing various local businesses and organizations in Mihara, such as 三原寺泊院, 東進衛星予備校, and others.

Table listing various local businesses and organizations in Mihara, such as 小野税理士事務所, 尾道補聴器センター, and others.